

# リスクに応じた規制の区分の考え方

- 小型無人機の安全な飛行の確保は、墜落や衝突により地上の人や物件に被害を及ぼす可能性が高いかどうか（飛行空域、飛行方法）と、万一墜落等が発生した場合に想定される被害の大きさ（重量）の観点からリスクを評価し、規制制度のあり方を検討
- 上記の考え方に基づき、改正航空法に基づく現行の規制と、更なる安全確保のための検討すべき点について、リスクの区分ごとに下表の通り整理
- 今後、技術革新による安全性の向上や新たな安全対策の導入、国際的な基準策定の動きなどに対応し、規制の区分や内容は柔軟に見直していく必要

空域及び方法 重量	飛行に当たり許可・承認不要 (DID外、日中、目視内等)	飛行に当たり許可・承認が必要(DID内、 空港周辺、夜間、目視外等)	第三者の上空
		衝突・墜落による被害 発生可能性は <u>低い</u>	衝突・墜落による被害 発生可能性は <u>高い</u>
200g以上 (想定される被害規模 が一定程度以下)	<p>&lt;現行&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規制なし</li> </ul> <p>&lt;論点&gt;</p> <p>衝突・墜落発生による被害が 甚大なものについての対策 の要否</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重量による区分が考えられ るのではないか</li> <li>※ 現在の改正航空法の運用 (飛行にあたっての許可・承認) の基準では、25kgで区分し ている</li> </ul>	<p>&lt;現行&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許可・承認時に機体、操縦者、安全確保体制をチェック</li> </ul> <p>&lt;論点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機体、操縦者、安全確保体制のチェックに民間の能力を活用出来ないか。</li> </ul>	<p>&lt;現行&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より厳格な基準で審査</li> </ul> <p>&lt;論点&gt;</p>
25kg未満			
25kg以上 (想定される被害規模 が一定程度以上)		<p>&lt;現行&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許可・承認時に機体、操縦者、安全確保体制をチェック</li> <li>・より厳格な基準で審査</li> </ul>	<p>&lt;現行&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に厳格な基準で審査</li> </ul>
	<p>&lt;論点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機体、操縦者、安全確保体制のチェックに民間の能力を活用出来ないか。</li> </ul>		